

2016 年度 研究所事業報告書

研究所名	人文科学研究所
研究所長名	小関素明

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2016 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2016 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、別紙「研究所重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出してください。

本年度も以下の 3 つの課題、1. 史料の収集・蓄積を重視した日本近代社会・思想史研究、2. 現在社会と人間を解読するために哲学、倫理学、宗教学、社会学分野の研究者の協業による斬新な視角の模索、3. グローバル化の問題点の検証とそれへの実践的な対応の模索、を強く意識しながらそれぞれの課題に対応した以下の 3 つの研究所重点プロジェクト①「戦後民主主義の理念と制度設計」(代表: 加國尚志)、②「間文化現象学と人間存在の回復」(代表: 谷徹)、③「グローバル化とアジアの地域」(代表: 遠藤英樹)と 8 つの研究助成プログラムを組織し、以下の研究活動をすすめた。

1. 資料収集・調査活動

本年度は本来この活動の中心となるべき①の実質的な代表者(小関素明)の病気疾患による長期入院・療養の余波を受け組織だった活動ができなかった。ただ所属メンバーは東京を中心とした各資料所蔵機関、一部は海外での独自の資料集数活動を継続し、それぞれの研究成果に反映させた。②では同研究会所属の大学院生が、フランス国立図書館で資料研究に従事するのを支援した。

2. 学際研究・国際交流への取り組み

①では加藤周一現代思想研究センターや立命館史資料センター(中川家文書研究会)、立命館大学国際平和ミュージアムとの学術交流を生かした研究成果の発表が見られた。さらに多くの若手研究者が中国や韓国での国際シンポジウム、国際学会で関連テーマについての研究成果を公表し、論議を深めた。

②のなかの間文化現象学の研究会は、7 月には国際若手発表会というワークショップを開催し、若手の企画によりフランス、ドイツの若手研究者とともに、現象学の可能性の開削を試みたほか、ジゼル・ベルクマン講演会と、ガイド・クジナート講演会、日本ミシェル・アンリ哲学会との共催によるシンポジウム「ミシェル・アンリ哲学の地平を開く」を開催した。さらに 11 月には、人文研の協力の下、中国・広州の中山大学の研究者とともに「東アジア間文化現象学会議」を開催し、相互に差異をもつ中国と日本、東アジアと西洋との「あいだ」において生じる諸問題について討議、考察を深めた。また、3 月には科研費プロジェクトと連携して、「エコノミーと間文化性」をテーマとする間文化現象学ワークショップを開催した。

「暴力からの人間存在の回復」研究会では、2017 年 3 月に若手主催の研究会「芸術哲学の可能性」をワークショップ形式で開催し、若手研究者の国内研究ネットワーク形成を援助し、さらに同月、日仏哲学会と共催で同学会の春季研究大会においてシンポジウム「移民」を企画し、共同討議を行った。

3. 研究成果の発信と社会貢献

①は『立命館大学人文科学研究所紀要』111 に小特集「律法主義的視座を越えて」を組み、論文 2 本と書評 1 本を掲載した。

②は 2015 年度の若手主催のワークショップ「メルロ＝ポンティとレヴィナス＝愛、平和、正義」の内容を『立命館大学人文科学研究所紀要』112 に掲載し、若手研究者の成果発信の場を提供した。さらに、東アジア間文化現象学会議の成果についてすでにその一部を日独文化研究所の年報『文明と哲学』に掲載したほか、2017 年度の人文研紀要の特集号として刊行する準備をすすめている。

③では 12 月に開催された日中韓三大学国際シンポジウムで研究報告を行い、その成果を出版した(中谷義和ほか編『新自由主義的グローバル化と東アジア』法律文化社、2016 年)。それとともに研究助成プログラム「比較ポピュリズム研究会」および「社会統合の比較分析研究会」の共同研究の成果として中谷義和ほか編『ポピュリズムのグローバル化を問う』(法律文化社、2017 年)を公刊した。さらに観光的移動(ツーリズム・モビリティ)をテーマに、観光学術学会と共催(後援: 立命館大学文学部、立命館地理学会)でシンポジウムやヨナス・ラースン氏(ロスキレ大学)の基調講演とディスカッションを開催し、議論を深めた。またメンバーがチェンマイ大学の国際ワークショップで研究発表を行ったほか、昨年度に開催したシンポジウムの成果を『立命館大学人文科学研究所紀要』112 号に発表した。

4. 若手研究者の支援

②では大学院生の自主性を尊重した「国際若手発表会」を開催し、学術成果の発表やフランス、ドイツの若手研究者と交流の機会を与えたほか、若手主催の研究会「芸術哲学の可能性」をワークショップ形式で開催するなど若手研究者の研究企画能力の増進に務めた。

③では若手研究者を対象に「グローバル化の進展と国家の変容」というテーマに関して英語で書かれた最新業績を批判的に検討する読書会を開催し、大学院生の研究能力や語学力の向上に務めた。また、博士後期課程在生員に対しても積極的に研究会・ワークショップにおける発表機会を提供や現地調査・フィールドワークを精力的に実施した。以上、本年度の研究活動は未だ課題を残している部分もあるが、所期の目的を順当に推進しつつあると言える。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2017年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
研究所長・センター長	小関 素明	文学部	教授	
運営委員	谷 徹	文学部	教授	
	加國 尚志	文学部	教授	
	遠藤 英樹	文学部	教授	
	加藤 雅俊	産業社会学部	准教授	
	加藤 政洋	文学部	教授	
	藤巻 正己	文学部	教授	
	川村 仁子	国際関係学部	准教授	
	クロス 京子	国際関係学部	准教授	
	渡辺 千原	法学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	北尾 宏之	文学部	教授	
	伊勢 俊彦	文学部	教授	
	亀井 大輔	文学部	准教授	
	林 芳紀	文学部	准教授	
	ウェルズ 恵子	文学部	教授	
	鳶野 克己	文学部	教授	
	岡本 雅史	文学部	准教授	
	萩原 正樹	文学部	教授	
	松下 冽	国際関係学部	特任教授	
	小澤 亘	産業社会学部	教授	
	田中 聡	文学部	教授	
	河角 直美	文学部	准教授	
	石崎 祥之	経営学部	教授	
	羽谷 沙織	国際教育推進機構	准教授	
	駒見 一善	国際教育推進機構	准教授	
	De Antoni Andrea	国際関係学部	准教授	
	轟 博志	APU アジア太平洋学部	教授	
	四本 幸夫	APU アジア太平洋学部	准教授	
	麻生 将	文学部	特任助教	
	韓 準祐	文学部	特任助教	
	井澤 友美	国際関係学部	助教	
	学内の若手研究者	専門研究員・研究員	林 尚之	衣笠総合研究機構
吉田 武弘			アジア・日本研究機構	専門研究員
補助研究員・リサーチアシ				

スタント				
	学振特別研究員 (PD・RPD)	鈴木 崇志	衣笠総合研究機構	
	博士後期課程院生・一貫 制博士課程 3 回生以上 在籍院生	山口 一樹	文学研究科	学振特別研究員 DC
		寺澤(奈良) ゆう	文学研究科	学振特別研究員 DC
		織田 康孝	文学研究科	学振特別研究員 DC
		久保 健至	文学研究科	博士後期課程 2 回生
		斎藤 仁志	文学研究科	博士後期課程 2 回生
		小田切 建太郎	文学研究科	博士課程後期課程 3 回生
		松田 智裕	文学研究科	博士課程後期課程 3 回生
		横田 祐美子	文学研究科	博士課程後期課程 3 回生
		酒井 麻依子	文学研究科	博士課程後期課程 2 回生
		有村 直輝	文学研究科	博士課程後期課程 2 回生
		柳川 耕平	文学研究科	博士課程後期課程 1 回生
		森田 耕平	文学研究科	博士後期課程 3 回生
谷崎 友紀		文学研究科	博士後期課程 3 回生	
前田 一馬	文学研究科	博士後期課程 1 回生		
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)	中島 茂樹	法学部	非常勤講師	
	颯原 善徳	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	丸山 彩	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	城下 賢一	文学部・産業社会学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	青柳 雅文	文学部	非常勤講師	
	神田 大輔	文学部	非常勤講師	
	小林 琢自	文学部	非常勤講師	
	高橋 義人	文学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	田邊 正俊	文学部	非常勤講師	
	中谷 義和	上席研究員	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	西口 清勝	経済学部	非常勤講師 (人文研客員研究員)	
	風間 健	文学研究科	博士前期課程 3 回生	
	LU Zhenni	文学研究科	博士前期課程 1 回生	
客員協力研究員	赤澤 史朗	人文科学研究所	上席研究員	
	猪原 透	人文科学研究所	客員研究員	
	佐藤 太久磨	漢陽大学校調	教授	
	乙部 延剛	茨木大学人文学部	講師	
	黒岡 佳証	福州大学(中華人民共和国)	副教授	
	HAKKARAINEN Nina-Helena	人文科学研究所	客員研究員	
	村上 友章	三重大学教養教育機構	特任准教授	

	西田 彰一	国際日本文化研究センター	客員研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	菊池 俊介	BKC 社系研究機構	客員研究員
	池田 裕輔	東京大学	学振PD
	三枝 暁子	東京大学大学院 人文社会系研究科	准教授
	櫻澤 誠	大阪教育大学	准教授
	村上 しほり	神戸大学大学院 人間発達環境学研究科	研究員
	山本 勇次	大阪国際大学	名誉教授
	瀬川 真平	大阪学院大学	教授
	橋本 和也	京都文教大学	教授
	石井 香世子	東洋英和女学院	教授
	神田 孝治	和歌山大学	教授
	古村 学	宇都宮大学	准教授
	大野 哲也	桐蔭横浜大学	准教授
	峯俊 智穂	追手門学院大学	准教授
	薬師寺 浩之	奈良県立大学	専任講師
佐藤 勇一	福井工業高等専門学校	准教授	
研究所・センター構成員 計 84 名 (うち学内の若手研究者 計 17 名)			

III. 研究業績 (公開項目)

本欄には、「II. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2017年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	林尚之	自由と人権—社会問題の歴史からみる	共著	2017年3月	大阪公立大学共同出版会	梅田直美	
2	Toru Tani	Kontexte des Leiblichen	共著	2016年7月	Verlag Traugott Bautz GmbH	Cathrin Nielsen, Karel Novotný, Thomas Nenon	S. 251-274
3	谷 徹 (訳)	『内的時間意識の現象学』	単独訳	2016年12月	筑摩書房(ちくま学芸文庫)	エトムント・フッサール (著)	p.668
4	谷 徹	『生命と死のあいだ 臨床哲学の諸相』	共著	2017年1月	河合文化教育研究所	木村敏・野家啓一・内海健 (編)	pp.21-66
5	Toru Tani	Philosophie im gegenwaertigen Japan	共著	2017年3月	IUDICIUM Verlag GmbH	Hans Peter Liederbach (Hrsg.)	S. 74-93
6	加國尚志	『沈黙の詩法—メルロ＝ポンティと表現の哲学』	単著	2017年3月	晃洋書房		pp.1-237
7	加國尚志 亀井大輔 佐藤勇一 黒岡佳征 (訳)	『メルロ＝ポンティ哲学者事典 第三巻』	共訳	2017年2月	白水社	モーリス・メルロ＝ポンティ (著) 加賀野井秀一・伊藤泰雄・本郷均・加國尚志監訳	pp.23-39 pp.40-51 pp.52-57 pp.80-95 pp.114-124 pp.324-343 pp.408-422
8	亀井大輔 (訳)	『獣と主権者 II (ジャック・デリダ講義録)』	共訳	2016年6月	白水社	ジャック・デリダ (著) 西山雄二・荒金直人・佐藤嘉幸 (訳)	pp.91-156

9	亀井大輔 松田智裕	『終わりなきデリダ ハイ デガー、サルトル、レヴィ ナスとの対話』	共著	2016年11月	法政大学出版局	齋藤元紀・澤田直・ 渡名喜庸哲・西山雄 二(編)	4, pp.9-41 pp.155-174
10	遠藤英樹	理論で読むメディア文化— 「今」を理解するためのリテラ シー	分担	2016年5月	新曜社	松本健太郎[編]	pp.227-243
11	遠藤英樹	メディア・コンテンツ論	共編著	2016年5月	ナカニシヤ出版	岡本健	
12	遠藤英樹	ショッピングモールと地域	分担	2016年7月	ナカニシヤ出版	井尻昭夫・江藤茂博・ 大崎紘一・松本健太 郎[編]	pp.96-108
13	遠藤英樹	アンソニー・エリオット&ジョ ン・アーリ『モバイル・ライブ ズ—「移動」が社会を変え る』	監訳	2016年11月	ミネルヴァ書房	神田孝治他	
14	遠藤英樹	ツーリズム・モビリティーズ —観光と移動の社会理論	単著	2017年3月	ミネルヴァ書房		
15	神田孝治	ここからはじめる 観光学	共著	2016年12月	ナカニシヤ出版	大橋昭一・山田良治	
16	羽谷沙織	カンボジアの市民性教育— 大人と若者のアセアン意識 の世代間相違	分担	2017年3月	東信堂	平田利文	pp.51~81
17	Saori Hagai,	Ideologies inside textbooks: Vietnamization and Re-Khmerization of Political Education in Cambodia during the 1980s.	分担	2017 December	Sense Publishers	Michelle J. Bellino and James H. Williams Yuto Kitamura, Khlok Vichet Ratha and William C. Brehm	pp.49~73
18	石井香世子	国際社会学入門	編著	2017年3月	ナカニシヤ出版		
19	石井香世子	パスポート学	分担	2016年10月	北海道大学出版会	陳天璽・大西宏之・小 森宏美・佐々木てる編 著	pp.62-67
20	Han Junwoo	“An Overview of Japanese Tourism-Based Community Development: Definitions and Successes” in Urban and Rural Developments: Perspectives, Strategies and Challenges	分担	2016年7月	Nova Science Publishers, New York, USA	Vivian Fletcher Yotsumoto, Yukio, Nobuhide Hatada	pp.1-15
21	四本幸夫	『観光まちづくりにおける阻 害要因に関する実証的研 究』平成26年度~28年度 科学研究費補助金基盤研 究(C)(一般)研究成果報告書 課題番号26380734	共著	2017年3月	立命館アジア太平洋大学	韓準祐、島田展行	
22	井澤友美	「復活する地方アイデンティ ティ:統合と分離—インドネ シア・バリ州におけるポピュ リズムの考察」『ポピュリ ズムのグローバル化を問う』	分担	2017年3月	法律文化社	中谷義和・川村仁子・ 高橋進・松下洸編	pp.223-241

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者 名	担当頁数	査読有無
1	小関素明	加藤周一の精神史	単著	2017年3月	立命館大学人文科学研究 所紀要111		pp.127-182	有
2	林尚之	20世紀転換期のなか の思想司法と国体論	単著	2016年12 月	比較日本学38(韓国・漢 陽大学)		pp.37-51	有
3	林尚之	内閣憲法調査会と現 行憲法無効論	単著	2017年2月	寧楽史苑62			有
4	赤澤史朗	書評:白川哲夫著 『「戦没者慰霊」と近	単著	2016年10 月	『日本史研究』650号		pp.67-73	有

		代日本』						
5	佐藤太久磨	「主権的秩序をめぐる二つの法理—帝国日本のインターナショナリズムとその技法 (1)」	単著	2016年9月	『比較日本学』37 (韓国・漢陽大学校日本学国際比較研究所)		pp.1-21	有
6	佐藤太久磨 吉田武弘	書評:小関素明著『日本近代主権と立憲政体構想』の射程	共著	2017年3月	立命館大学人文科学研究紀要 111		pp.223-242	有
7	乙部延剛	ドゥルーズの「おろかさ」論:『差異と反復』の政治的射程	単著	2016年	政治思想研究 16		pp.117-43	有
8	乙部延剛	書評:杉田敦著『両義性のポリティック』『権力論』『境界線の政治学 増補版』	単著	2016年9月	図書新聞 3269 2-2			
9	中島茂樹	安倍政権とは何か—『例外状態の常態化』	単著	2016年	日本科学者会議第21回総合学術研究会編『第21回総合学術研究会予稿集—科学と社会との緊張関係』(2016年)		pp.72-73	有
10	穎原善徳	初期議会期における条約の国内編入をめぐる問題	単著	2017年3月	立命館大学人文科学研究紀要 111		pp.183-222	有
11	丸山彩 織田康孝	「日本軍政下のジャワにおける歌曲募集—《八重潮》の成立に着目して」	共著	2016年	立命館平和研究 18		pp.75-84	有
12	久保健至	関東庁外事課の変容と対満政策—昭和初期を中心として—	単著	2016年	立命館史学 37		pp. 79-102	有
13	城下賢一	何が長期政権をもたらしているのか 安倍政権の分析	単著	2016年	『生活経済政策』239		pp.17-20	有
14	谷 徹	「あいだである—生命の实在?」	単著	2016年10月	『現代思想』11月臨時増刊号、第44巻20号、青土社		pp.143-160	無
15	谷 徹	「文明・文化と「五」」	単著	2017年3月	『文明と哲学』第9号、公益財団法人日独文化研究所		pp.119-138	無
16	加國尚志	「生と死のあいだ—臨床哲学と医学的人間学」	単著	2016年10月	『現代思想』11月臨時増刊号、第44巻20号、青土社		pp.186-207	無
17	亀井大輔	「真理と痕跡—デリダとハイデガーの〈アレーティア〉」	単著	2016年6月	『アルケー』第24号、関西哲学会		pp.15-28	無
18	亀井大輔 (訳)	「近接と対立—モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』の試練にかけられるジャック・デリダとジャン=リュック・ナンシー—」	共訳	2017年3月	『人文学報 フランス文学』513-515号、首都大学東京大学院人文科学研究科	ジゼル・ベルクマン (著) 市川博規 (訳)	pp.181-202	無
19	池田裕輔	「オイゲン・フインクの現象学的カント解釈について (前編)」	単著	2017年3月	『立命館哲学』第28集、立命館大学哲学会		pp.61-86	有
20	鈴木崇志	「他者経験の表現とその倫理的当為:フッサールの伝達の現象学に関する一考察」	単著	2016年10月	『実践哲学研究』第39号、京都倫理学会		pp.33-58	無
21	鈴木崇志	『論理学研究』第4研究における鏡映の比喻について」	単著	2016年11月	『現象学年報』第32号、日本現象学会		pp.129-136	有
22	鈴木崇志	「フッサールの他者経験の理論における三つの「出会い」」	単著	2017年3月	『フッサール研究』第14号、フッサール研究会		pp.82-103	無

23	鈴木崇志	「1921年以降のフッサールの伝達の理論の展開」	単著	2017年3月	『倫理学年報』第66集、日本倫理学会		(未確定)	有
24	小田切建太郎	「初期ハイデガーにおける関心の中動態」	単著	2017年3月	『立命館哲学』第28集、立命館大学哲学学会		pp.87-108	有
25	松田智裕(訳)	「差異の問い—デリダとハイデガー」	共訳	2017年3月	『知のトボス』第12号、新潟大学大学院現代社会文化研究科「世界の視点をめぐる思想史的研究」プロジェクト	フランソワーズ・ダステュール(著) 宮崎裕助(共訳)	pp.91-131	無
26	松田智裕(訳)	「ジャン＝リュック・ナンシーの「キリスト教の脱構築」をめぐって」	単独訳	2017年3月	『人文学報 フランス文学』、513・515号、首都大学東京大学院人文科学研究科	ジャン＝リュック・ナンシーほか(著)	pp.81-120	無
27	横田祐美子(訳)	「変容、世界」	単独訳	2017年3月	『人文学報 フランス文学』、513・515号、首都大学東京大学院人文科学研究科	ジャン＝リュック・ナンシー、ボヤン・マンチェ(著)	pp.29-52	無
28	横田祐美子(訳)	「世界の欲望—ジャン＝リュック・ナンシーと存在論的エロス」	単独訳	2017年3月	『人文学報 フランス文学』、513・515号、首都大学東京大学院人文科学研究科	ボヤン・マンチェ(著)	pp.203-225	無
29	酒井麻依子	「メルロ＝ポンティにおける嫉妬と愛」	単著		『立命館大学人文科学研究所紀要』、112号、立命館大学人文科学研究所		pp.45-70	有
30	田邊正俊	「文化」と「文明」の相克—ニーチェ哲学における「文化」の"二面性"を手がかりとして—」	単著	2017年3月	『文明と哲学』第9号、公益財団法人日独文化研究所		pp.171-189	有
31	佐藤勇一	「ミシェル・アンリ哲学における宗教思想家としてのカフカ」	単著	2016年6月	『ミシェル・アンリ研究』第6号、日本ミシェル・アンリ哲学学会		pp.111-132	有
32	佐藤勇一	「マーティン・ジェイにおけるルーメンとルクス：『うつむく眼』とヴァスコ・ロンチの『光学』の差異を通じて」	単著	2016年12月	『福井工業高等専門学校研究紀要. 人文・社会科学』第50号、福井工業高等専門学校		pp.23-34	有
33	黒岡佳旌	「ハイデガーとデカルトの遺産」	単著	2017年3月	『立命館大学人文科学研究所紀要』、112号、立命館大学人文科学研究所		pp.91-110	有
34	Hideki ENDO	The Interconnection between Popular Culture and Tourism	単著	2016年9月	Asian Journal of Tourism Research Vol.1, Special Issue		pp.114-127	有
35	遠藤英樹	観光における「伝統の転移」—「合わせ鏡」に映る鏡像としての地域アイデンティティ	単著	2017年1月	立命館文学 649号		pp.102-112	無
36	遠藤英樹	大学における「観光学理論」はどこに向かうべきなのか？	単著	2017年2月	観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築『研究成果最終報告書』		pp.31-46	無
37	遠藤英樹	モビリティ時代におけるポピュラーカルチャーと観光の相互接続—観光的磁場に惹かれるポピュラーカルチャー	単著	2017年3月	立命館文学 650号		pp.13-25	無
38	遠藤英樹	ヨナス・ラースン著「レジャー、自転車のモビリティーズ、都市」	単著	2017年3月	観光学評論 5巻1号	翻訳	pp.49-61	有

39	神田孝治	沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容—移動に注目したダークツーリズムの考察	単著	2017年3月	観光学評論 5巻1号		pp.93-110	有
40	大野哲也	スポーツと平等性—ジェンダーと障がい者スポーツの視点から	単著	2016年2月	桐蔭横浜大学桐蔭論叢 第36号		pp.25-37	無
41	古村学	書評 石原俊著『〈群島〉の歴史社会学—小笠原諸島・硫黄島・日本・アメリカ、そして太平洋世界』	単著	2016年6月	関西社会学会, フォーラム現代社会, 15		pp.116-117	無
42	薬師寺浩之	孤児院ボランティアツーリズムをめぐる矛盾と批判—英国主要新聞社による報道内容からの考察	単著	2017年3月	立命館文学 650号		pp.59-77	無
43	薬師寺浩之	タイ国政府観光局による観光誘致キャンペーンを読み解く—「タイらしさ」の表象と政治性	単著	2016年11月	立命館地理学 28巻		pp.15-24	無
44	薬師寺浩之	書評:「若者の海外旅行離れ」の実態と打開策を「若者」の声をもとに探る[中村哲・西村幸子・高井典子 著『「若者の海外旅行離れ」を読み解く—観光行動論からのアプローチ』]	単著	2016年9月	観光学評論 4巻2号		pp.211-213	有
45	韓準祐	発見される里山:針江	単著	2017年3月	立命館文学 650号		pp.661-677	無
46	韓準祐	由布院の事例分析を通じた観光まちづくり研究の再考察の試み	単著	2016年9月	観光学評論 4巻2号		pp.91-106	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	林尚之	日本国憲法体制の確立と全面改憲の胎動	2016年6月25日	シンポジウム 自由民主党と改憲論の成立 (主催: 史創研究会 於 奈良女子大学)	
2	山口一樹	書評: 白川哲夫著『「戦没者慰霊」と近代日本』(勉誠出版、2015年)	2016年9月10日	2016年日本史研究会近現代史サマーセミナー (主催: 日本史研究会 於 舞鶴東コミュニティセンター)	
3	山口一樹	「軍事諮問機関小論」	2016年12月17日	立命館史学会大会、於 立命館大学衣笠キャンパス	
4	織田康孝	日本軍政下のジャワ島における朝日新聞社の進出とスカルノの登場	2016年6月25日	メディア史研究会6月例会於日本大学<東京>	
5	久保健至	関東庁警務局の台頭と対満政策の変容—満洲事変前を中心に—	2016年9月23日	大阪歴史学会近代史部会 市立淀川区民センター<大阪市>	
6	猪原透	「認識論と社会科学の交差—大正・昭和思想史のなかの「マッハ哲学」について」	2017年2月	主催: 近現代史研究会 於 名古屋大学	
7	佐藤太久磨	「主権的秩序をめぐる二つの法理—帝国日本のインターナショナルリズム」	2016年5月	韓国日本近代学会第33回国際学術大会 (於韓国・慶北大学校)	
8	佐藤太久磨	〈アジア〉への回帰—「大東亜共栄圏」と「アジア連合」	2016年6月	日本史学会第79回例会 (於韓国・高麗大学校)	

9	佐藤太久磨	「戦争と革命—日本近代主権の構成原理」	2016年8月	史創研究会シンポジウム「戦争とは何か？」(於奈良女子大学)	
10	SATO Takuma,	The Seduction of “Nuclear-Nationalism”: A Page of Anti-Americanism Nationalism	2016年9月	EAJS 第2回日本会議 (於神戸大学)	
11	佐藤太久磨	「美濃部・横田論争とは何か? —その政治思想史的位置」	2017年1月	大阪歴史学会近代史部会 (於淀川区民センター (大阪))	
12	佐藤太久磨	「国際主義」的法理小考—美濃部達吉と横田喜三郎	2017年2月	中川家文書研究会 (於立命館大学)	
13	佐藤太久磨	「大東亜戦争」と「大東亜共栄圏」の哲理	2017年5月	中川家文書研究会・国外例会 (於韓国・漢陽大学校日本学国際比較研究所)	
14	丸山彩 織田康孝	共同研究報告: アジア・太平洋戦争期のジャパにおける歌曲懸賞—《八重潮》の成立に着目して—	2016年5月	第1回国際社会平和ミュージアム・メディア資料研究会、於立命館大学国際平和ミュージアム	
15	Nobutaka Otobe	Toward the Maturation of the Public? Critical Theory for the Global East and Global South:	2017年3月6日	The University, Neoliberal Violence, and Practice, 国立台湾大学<中華民国>	
16	Nobutaka Otobe	"What is the “Maturation of Democracy”? Democracy in Post-WWII Japan."	2016年9月2日	アメリカ政治学会 (APSA) 年次大会 於アメリカ合衆国 フィラデルフィア)	
17	丸山彩 織田康孝	共同研究報告: アジア太平洋戦争期の日本軍政下「南方」における文化政策—『ウタノエホン 大東亜共栄唱歌集』(1943年)を中心に—	2016年11月	第11回国際日本語教育・日本研究シンポジウム 於香港公開大學)	
18	城下賢一	安倍政権下の自民党 欧州保守政党との比較	2016年6月25日	日本比較政治学会大会 於 京都産業大学	
19	城下賢一	戦後政治とインフラ整備	2016年9月7日	土木学会土木史研究委員会 (戦後土木施設に関する小委員会) 於土木学会会館	
20	Toru Tani	Body, Language and Mediality	2016年5月	“Embodiment. Phenomenology East/West”, Freie Universität Berlin	
21	谷 徹	媒体性の現象学的形而上学	2016年9月	土井道子記念京都哲学基金「形而上学と現象学」、京都ガーデンパレス	
22	谷 徹	私は思考しうるか?	2016年12月	河合臨床哲学シンポジウム「人称—その成立とゆらぎ」、東京大学、弥生講堂 一条ホール	シンポジスト: 清水光恵・森一郎・斎藤環・谷徹、司会・コメンテーター: 内海健・野家啓一、全体討論: 木村敏
23	加國尚志	「抽象芸術と感情—アンリの生の現象学とリオタールの崇高—前衛論から」	2016年6月	龍谷大学大阪梅田キャンパス	
24	加國尚志	「キアスム、非連続の連続—西田哲学と後期メルロ=ポンティ存在論の接するところ」	2016年7月	明治大学駿河台キャンパス	
25	亀井大輔	「第3・4回のまとめ」	2016年7月	Workshop『獣と主権者II』を読む、東京大学	
26	亀井大輔	『「他者」の逆説』コメント」	2016年9月	吉永和加著『「他者」の逆説: レヴィナスとデリダの狭き道』合評会、同志社大学	
27	亀井大輔	「エコノミーと戦略」	2017年3月	間文化現象学センター・ワークショップ「エコノミーと間文化性」、立命館大学	
28	Takashi Suzuki	“Strukturen des Zusammenkommens bei Husserl”	2016年7月	立命館大学「間文化現象学研究センター」主催《国際若手発表会》、立命館大学	
29	鈴木崇志	「フッサールの「生の歴史」概念の成立過程」	2016年10月	関西哲学会第69回大会、大阪大学	

30	Kentaro Otagiri	"Was heist heute das Wohnen im "Haus"?"	2016年7月	立命館大学「間文化現象学研究センター」主催《国際若手発表会》、立命館大学	
31	Tomohiro Matsuda	"Derrida's "New Ontology." Status of the Word "Ontology" in his early Works	2016年6月	Derrida Today Conference, University of London, Goldsmith.	
32	Tomohiro Matsuda	"Pourquoi s'agit-il de l' "existence" : autour de la facticité et de l'ontologie chez Derrida"	2016年6月	Le centre d'Études multiculturelles, Maison du Japon, Paris	
33	Yumiko Yokota	"La question du derobement chez Bataille et Derrida"	2016年6月	Centre d'Études Multiculturelles de la Maison du Japon, 10eme Conference academique de jeunes chercheurs, deuxieme session, Maison du Japon, Paris	
34	横田祐美子	「バタイユにおける思考のエロティシズム」	2016年7月	表象文化論学会第11回大会、立命館大学	
35	横田祐美子	「バタイユ、ハイデガー、ナンシーにおける根拠の問い——『無為の共同体』に基づいて——」	2017年3月	日仏哲学会2017年春季大会、立命館大学	
36	Maiko Sakai	"Violent Coexistence in Merleau-Ponty"	2016年7月	立命館大学「間文化現象学研究センター」主催《国際若手発表会》、立命館大学	
37	酒井麻依子	「ソルボンヌ講義における対人関係の病理——「アバンドニク」を中心に」	2016年9月	日本メルロ=ポンティ・サークル第22回年次大会、日本大学通信教育部	
38	Kohei Yanagawa	"Interculture in Husserl's Theory of Time"	2016年7月	立命館大学「間文化現象学研究センター」主催《国際若手発表会》、立命館大学	
39	Masafumi Aoyagi	"Enlightenment and Interculturality: Dialectical Culture and Inter-cultural Experience"	2016年8月	The 3rd Conference on Contemporary Philosophy in East Asia SNU Institute of Philosophy, Seoul	
40	青柳雅文	「文化の弁証法と間文化性——ホルクハイマー、アドルノの『啓蒙の弁証法』を手がかりとして——」	2016年11月	東アジア間文化現象学会議、立命館大学	
41	佐藤勇一	「エコノミーと自然法をめぐる間文化的考察——モンテニユの大陸とケネーの中国——」	2017年3月	間文化現象学センター・ワークショップ「エコノミーと間文化性」、立命館大学	
42	遠藤英樹	Politics of Urban Landscapes in Tourism	2016年11月	2016年度中日人文地理与観光研究所国際セミナー、上海師範大学	
43	遠藤英樹	"Transference of Traditions" in Tourism: Local Identities as Images Reflected in Infinity Mirrors	2017年2月	The International Seminar on Tourism in Asia: Change and Diversity、チェンマイ大学	
44	神田孝治	沖縄本島における墓地を対象とした観光の生産とその変容——モビリティに注目したダークツーリズムの一考察	2016年7月	観光学術学会第5回大会、立命館大学	
45	Yotsumoto, Yukio	Ecotourism in the Kyushu Region of Japan: Does it help to reduce carbon dioxide?	2017年2月	The International Workshop on "Scientific Tourism and Ecotourism" (The University of Yazd, Iran) organized by The Center for International Scientific Studies & Collaboration (Ministry of Science, Research & Technology, Islamic Republic of Iran) and the University of Yazd, Iran	

46	古村学	知床・羅臼におけるエコツーリズム——漁師の町の「豊かな自然」	2016年7月	観光学術学会第5回大会、立命館大学	
47	古村学	エコツーリズムという言葉の無意味さ——世界自然遺産地域における野生生物と地域住民 第五回	2016年9月	知床財団 しれとこぜみ、知床自然センター	
48	古村学	ヤマネコとヒグマ——世界自然遺産地域における野生生物と地域住民 第六回	2016年9月	知床財団 しれとこぜみ、知床自然センター	
49	古村学	知床羅臼から見たエコツーリズム	2016年10月	グローバル化とアジアの観光研究会、キャンパスプラザ京都	
50	古村学	ヤマネコとアノール——世界自然遺産地域における野生生物と地域住民 第七回	2017年3月	One Life 勉強会、小笠原ビジターセンター	
51	薬師寺浩之	孤児院ボランティアツアーにおける孤児の貧困や不幸という「ダークネス」	2017年2月	観光学術学会第4回研究集会、和歌山大学	
52	薬師寺浩之	観光と倫理	2017年7月	奈良県立大学研究会例会、奈良県立大学	
53	薬師寺浩之	近年の東南アジアにおける観光開発の動向	2017年7月	奈良地理学会平成28年度夏季例会、奈良県立大学	
54	韓準祐	「里山針江」における観光まちづくり	2017年1月	山口大学観光政策 Informix、山口大学吉田キャンパス	
55	井澤友美	地方自治とポピュリズム:インドネシア・バリ州の事例から	2016年6月24日	立命館大学人文科学研究所「社会統合の比較分析」研究会キャンパスプラザ京都 6階第1演習室	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	国際カンファレンス「アジアの都市・地域研究の課題と展望」共同ポスターセッション 吉田武弘・久保健至・山口一樹「政党内閣期における大陸政策と枢密院—「外交報告」を中心に」	立命館大学大阪茨木キャンパス	2017年2月23日		
2	国際若手発表会	衣笠キャンパス	2016年7月	20名	
3	ジゼル・バルクマン氏講演会	衣笠キャンパス	2016年11月	30名	
4	東アジア間文化現象学会議	衣笠キャンパス	2016年11月	20名	中山大学（中華人民共和国）、立命館大学人文科学研究所
5	シンポジウム「ミシェル・アンリ哲学の地平を開く」	衣笠キャンパス	2016年12月	20名	日本ミシェル・アンリ哲学会
6	ワークショップ「エコノミーと間文化性」	衣笠キャンパス	2017年3月	25名	
7	グイド・クジナート氏講演会	衣笠キャンパス	2017年3月	25名	
8	ワークショップ「芸術哲学の可能性」	衣笠キャンパス	2017年3月	10名	
9	シンポジウム「移民」	衣笠キャンパス	2017年3月	50名	日仏哲学会
10	人文科学研究所重点プログラム・国際シンポジウム	衣笠キャンパス	2016年7月	200名	観光学術学会
11	人文科学研究所重点プログラム研究会	キャンパスプラザ京都	2016年10月	20名	
12	Partial Citizenship of Family Migrants	立教大学	2016年10月	20名	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
13	Urban Borderlands and Citizenship	立教大学	2017年2月	20名	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	小関素明	詩的言語と性愛のコスモポリタニズム	立命館大学土曜講座 於立命館大学衣笠キャンパス	2016年5月21日	
2	林尚之	多様であるとは何か（招待講演）	主催：高等学院、於東京 YMCA 山手コミュニティセンター	2016年3月18日	
3	佐藤勇一	「第5回国際現象学会（パース）」（国際学会報告）	『現象学年報』第32号、日本現象学会、189-193頁		
4	遠藤英樹	旅する(travelling)祭り——高知、札幌から京都、大阪へ	立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座(前期) 京都・大阪の「祭礼」再考	2016年6月	
5	遠藤英樹	観光の定義と歴史	川西市生涯学習短期大学レフネック	2016年9月	
6	遠藤英樹	観光と地域の関係性——観光まちづくりの挑戦	川西市生涯学習短期大学レフネック	2016年9月	
7	遠藤英樹	芸能と観光の昭和史——吉本にみる〈埋もれた昭和〉と〈創られた昭和〉	立命館大阪プロムナードセミナー 大阪・京都文化講座(後期) 昭和の風俗・風物・風景——忘れられた昭和史	2016年12月	
8	遠藤英樹	なぜ人は旅をするのか？	ウェブマガジン『自動運転の論点——それは私たちをどこへ連れて行くのか』(http://jidounten.jp/) 「人の移動をつくる観光」	2017年1月	
9	遠藤英樹	多様化する観光のかたち	ウェブマガジン『自動運転の論点——それは私たちをどこへ連れて行くのか』(http://jidounten.jp/) 「人の移動をつくる観光」	2017年1月	
10	藤巻正己	グローバル化とアジアの観光	阪神シニアカレッジ	2016年9月	
11	藤巻正己	社会空間の地理学的読み解き	川西市生涯学習短期大学レフネック	2016年9月	
12	藤巻正己	周辺の社会集団	川西市生涯学習短期大学レフネック	2016年9月	
13	四本幸夫	ベトナムの少数民族と観光	APU/大分合同新聞講座（大分市宗麟館）	2016年10月	

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	小田切建太郎	日本現象学会	研究奨励賞		2016年11月
2	遠藤英樹	観光学術学会	教育・啓蒙著作賞	観光メディア論	2016年7月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	小関素明	加藤周一の思想史研究——手稿ノートを中心に	基盤研究 (C)	2014年4月	2017年3月	分担
2	林尚之	近代日本立憲主義と戦後政治に関する総合的研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
3	中島茂樹	イノベーション政策下における国家・大学間関係に関する公法学的比較研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
4	加國尚志	「間文化性の理論的・実践的探求——間文化現象学の展開」	基盤研究 (B)	2014年4月	2019年3月	代表
5	伊勢俊彦	私の人々とともに住み、行動する世界の構成と自己の外部への依存の哲学的研究	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
6	亀井大輔	遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明	基盤研究 (C)	2014年4月	2017年3月	代表
7	林芳紀	医学研究者の追加的ケアの責務—部分委託モデルの検証と国際正義論への接続	基盤研究 (C)	2015年4月	2018年3月	代表
8	高橋義人	西欧文学にみる反デモロジーの精神史	基盤研究 (C)	2016年4月	2019年3月	代表
9	ウェルズ恵子	西欧文学にみる反デモロジーの精神史	基盤研究 (C) (代表：高橋義人)	2016年4月	2019年3月	分担
10	ウェルズ恵子	アメリカにおける都市移民の口承文化：1880-1930年代の南欧東欧移民を中心に	基盤研究 (C)	2014年4月0	2018年3月	代表

11	岡本雅史	臨床・教育場面におけるトラブル事例の実践分析～帰属バイアスの相互解消に向けて	挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
12	遠藤英樹	観光まちづくりと地域振興に寄与する人材育成のための観光学理論の構築	基盤研究(C)(代表:橋本和也)	2013年4月	2017年3月	分担
13	神田孝治	観光に焦点をあてた歓待についての地理学的研究	挑戦的萌芽研究	2014年4月	2017年3月	代表
14	薬師寺浩之	日本人が参加する海外ボランティアツアーの文化に関する実証的研究	若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
15	四本幸夫	観光まちづくりにおける阻害要因に関する実証的研究	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
16	井澤友美	インドネシア・バリ州における民主化後のジレンマ:観光開発と文化保全	若手研究(B)	2015年4月	2019年3月	代表
17	神田孝治	「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開—地理学方法論の試みとして—	基盤研究(B)(代表:大城直樹)	2015年4月	2018年3月	分担
18	加藤政洋	「地域文化」の概念的整理と現象分析への展開—地理学方法論の試みとして—	基盤研究(B)(代表:大城直樹)	2015年4月	2018年3月	分担
19	石井香世子	日タイ・ジェンダー役割期待の比較研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
20	古村 学	世界自然遺産地域における野生生物と地域住民の関係にかんする比較研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
21	韓 準祐	身体障害者の観光の現状と阻害要因に関する実証的研究	若手研究(B)	2016年4月	2019年3月	代表
22	大野哲也	ツーリズムによる災害復興に関する観光社会学的研究—居住者の生活の立場から	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
23	小澤 亘	デジタル図書によるトランスナショナルな外国人児童学習支援ネットワーク構築の研究	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	羽谷沙織	アジアにおける地域農業振興の道具としてのGIの潜在力:日本とカンボジアの比較から	ロッテ財団2017年度奨励研究助成(研究代表者ハート・フォイヤー)	2017年2月	2019年3月	分担

9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当無し								